

九州バージョンにアップデート

ふくおかエコファミリー応援アプリ「エコふぁみ」が、九州版にアップデートされました。

基本的な操作方法などは変わりませんが、景品が当たるくじに、「エコトンくじ」に加えて新しく「エコふぁみくじ」が登場！

「エコトンくじ」は福岡県産品の詰め合わせが当たりますが、「エコふぁみくじ」は九州各県の県産品が当たります。どちらも使うポイントは200ポイントです。

ここでエコふぁみくじの景品を一部ご紹介！

佐賀県のお米、長崎県のそうめん、大分県のゆず茶、熊本県のゼリー、宮崎県のカレー、鹿児島県のフレバーティーなどです。

どこの県産品が当たるかは届いてからのお楽しみです。



各県の景品も何種類かあるようです！



推進員研修会を開催しました

10/8に令和3年度福岡県地球温暖化防止活動推進員研修会を、オンラインで実施しました。

今回は国立環境研究所の江守正多氏より「気候危機のリスクと社会の大転換」と題し、温暖化の基本から、今年8月に公表されたIPCC第6次報告書の内容等、最新情報までお話をいただきました。講演後のアンケートでは、「『人間活動による温暖化は疑う余地がない』『常識を変える』という言葉が印象的だった」との声が多く、推進員さんにとっても気づきの多い講演でした。

また、令和元年8月に設置された福岡県気候変動適応センターの高尾佳子氏より、福岡県気候変動適応センターの概要についてお話をいただきました。

質疑応答の中で、今後気候変動適応センターと温暖化防止活動推進センター、推進員らが連携して適応も啓発していくことなどが確認されました。



江守氏の講演の様子

自宅でのZoomによる受講が難しい推進員は、県内5カ所の会場から受講しました。

ふくおかエコ事業所応援bookをリニューアルしました



地球温暖化対策推進法の改正に伴い、地域センターの役割の1つに事業者向けの啓発広報活動が加わりました。

福岡県センターでは今年度、ふくおかエコ事業所応援bookを事業所の脱炭素経営等に資する内容に一新しました。本書は省エネ対策、環境マネジメントシステムを掲載した「実践編」と、さらにステップアップを目指すための「知識編」で構成されています。

ふくおかエコ事業所応援bookは、ふくおかエコライフ応援サイトでみることができます。

発行者 福岡県地球温暖化防止活動推進センター
(一般財団法人九州環境管理協会)

発行年月 令和3年12月

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

TEL：092-674-2360 FAX：092-674-2361

Email：fccca@keea.or.jp

ふくおかエコライフ応援サイトはこちら→



ふくおかエコライフ応援ペーパー

減002クラブ

2021
No.20

福岡県における気候変動適応の取組

●気候変動とは

気候変動とは通常は数十年かそれよりも長い期間持続する、気候状態の変化を指しています※。気候変動には、太陽周期の変調、火山噴火などの自然から発生する要因も考えられますが、ここで出てくる気候変動は人間活動により起こるものを指します。



※「気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト」

●気候変動の現況

福岡管区気象台が発表した「九州・山口の気候変動監視レポート2020」によると、福岡の年平均気温は変動を繰り返しながら100年あたり2.45℃の割合で上昇しています。真夏日、猛暑日、熱帯夜の年間日数が増え、冬日の年間日数は減っています。年降水量や短時間強雨の年間発生回数は長期的な変化傾向は見られませんが、1時間降水量50mm以上の年間発生回数は、2011年から2020年の平均回数が1976年から1985年に比べ約1.7倍に増加しています。生物季節現象としては、さくらの開花日は時期が早まり、いちごの黄葉日やかえでの紅葉日は遅くなる傾向にあります。

●気候変動の影響と適応策

気候変動の影響は既に様々なところで現れており、今後も増えていくことが予想されています。このため、福岡県では気候変動による影響や適応策を7つの分野に分けて整理し対策を進めています。詳細はホームページをご覧ください。

●適応策の例（農業分野）

福岡県では、恵まれた自然条件のもと様々な農作物が作られています。気候変動の影響を受けやすく、早くから対策が進められています。「元気つくし」は高温条件でも品質のよいお米が収穫できる品種で、福岡県農林業総合試験場で開発されました。以前の主力品種の「ヒノヒカリ」などのお米は暑さに弱く、高温の影響で米粒が白濁する白未熟粒が多発していました。このため、試験場内にある「水稻高温耐性評価施設」（穂が実る夏の期間に高温環境を人工的に作り出す施設）を使い長い年月をかけて多くの品種を掛け合わせて改良が行われ、高温条件でも品質がよくおいしい「元気つくし」が誕生しました。



●センター紹介

2019年8月、福岡県内の気候変動適応に関する情報拠点として福岡県気候変動適応センターを設置しました。福岡県の出先機関である福岡県保健環境研究所の中にあります。センターでは、専門家や関係機関との情報交換を行うため協議会を開催したり、収集した情報をホームページで提供したりしています。



福岡県気候変動適応センター（福岡県保健環境研究所内）

ホームページ：https://www.lccac.pref.fukuoka.lg.jp/

電話：092-921-9941 メール：contact@lccac.pref.fukuoka.lg.jp

福岡県気候変動適応センター サイトはこちら→



できることから始めよう、暮らしを脱炭素化するアクション



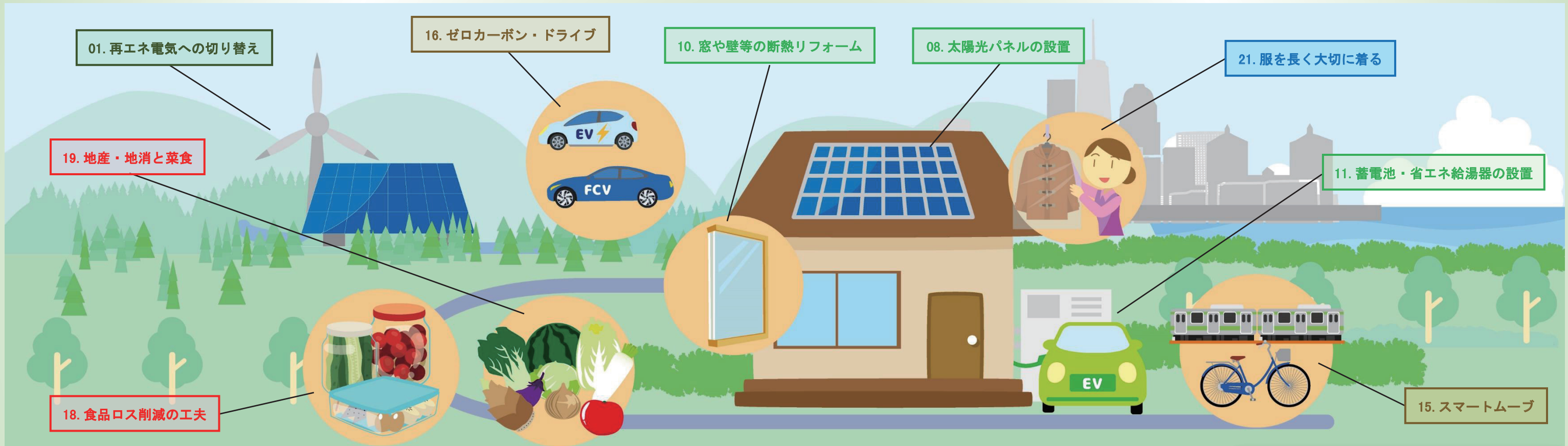
近年、毎年のように発生する豪雨災害や猛暑日の増加など、異常気象が発生しています。この気候変動という地球規模の課題の解決に向けて、日本では「2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指しています。この高い目標を達成するには、社会の仕組みを大きく変えていくに加えて、日常生活の中で一人ひとりのライフスタイルに合わせてできることがあります。暮らしを脱炭素化することで、快適やおトクといったメリットにつながることもあります。

環境省では、地球温暖化対策として「賢い選択」をしていこうという取組を行っています。

「賢い選択」＝「**COOL CHOICE：カーボンニュートラルの実現に向けて、未来のために、今選ぼう。**」これは脱炭素社会実現のために政府をあげての国民運動です。

「**COOL CHOICE**」では、具体的にどんなことをすればいいのかを「**ゼロカーボンアクション 30**」として提案しています！

ゼロカーボンアクション30は、大きく「エネルギーを節約・転換しよう」、「太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう」、「CO₂の少ない交通手段を選ぼう」、「食ロスをなくそう」、「サステナブルなファッションを」、「3R（リデュース、リユース、リサイクル）」、「CO₂の少ない製品・サービス等を選ぼう」、「環境保全活動に積極的に参加しよう」の8つに分けられます。その中には、すぐに取りかかれる取組としてスマートムーブ、食ロスの削減、地産・地消があります。また、これから脱炭素社会を構築するために効果的な取組として、再エネ電気への切替、太陽光パネルの設置、断熱リフォーム、蓄電池・省エネ給湯器の設置、ゼロカーボンドライブが挙げられます。



ゼロカーボンアクション 30

エネルギーを節約・転換しよう

- 01.再エネ電気への切り替え
- 02.クールビズ・ウォームビズ
- 03.節電
- 04.節水
- 05.省エネ家電の導入
- 06.宅配サービスをできるだけ一回で受け取ろう
- 07.消費エネルギーの見える化

太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう

- 08.太陽光パネルの設置
- 09.ZEH（ゼッチ）
住宅の高断熱化等で消費エネルギーを減らし、再生可能エネルギーを導入することで、年間の住宅エネルギー消費量が正味ゼロとなる住宅
- 10.省エネリフォーム、窓や壁等の断熱リフォーム
- 11.蓄電池（車載の蓄電池）・省エネ給湯器の導入・設置

- 12.暮らしに木を取り入れる
木は二酸化炭素（CO₂）を吸収し、育ちます。木を使うことで CO₂ を木の中に留めることができます
- 13.分譲も賃貸も省エネ物件を選択
- 14.働き方の工夫
テレワークやオンライン会議の利用

CO₂の少ない交通手段を選ぼう

- 15.スマートムーブ
徒歩、自転車や公共交通機関など自動車以外の移動手段を選択すること
- 16.ゼロカーボン・ドライブ
再エネ電力と電気自動車、燃料電池自動車などを活用した CO₂ ゼロのドライブ

食ロスをなくそう

- 17.食事を食べ残さない
- 18.食材の買い物や保存等での食品ロス削減の工夫
- 19.旬の食材、地元の食材でつくった菜食を取り入れた健康な食生活
- 20.自宅でコンポスト

サステナブルなファッションを

- 21.今持っている服を長く大切に着る
- 22.長く着られる服をじっくり選ぶ
- 23.環境に配慮した服を選ぶ

3R（リデュース、リユース、リサイクル）

- 24.マイバッグ、マイボトル、マイ箸、マイストロー等を使う
- 25.修理や修繕をする
- 26.フリマ・シェアリング
フリーマーケットで売る、シェアリングやサブスクリプションを利用する
- 27.ゴミの分別処理

CO₂の少ない製品・サービス等を選ぼう

- 28.脱炭素型の製品・サービスの選択
- 29.個人の ESG 投資
環境・社会・企業統治の3つの観点から企業を分析、評価した上で投資を選別する方法

環境保全活動に積極的に参加しよう

- 30.植林やゴミ拾い等の活動

地球温暖化防止のための自転車の利用促進

通勤や買い物の際、近距離であれば自転車を積極的に利用しましょう！

例えば、週2回往復8kmの自動車（ガソリン車）利用を控え、自転車に切り替えた場合、年間で約71.7リットル（約11,800円）のガソリンの節約となります※。これは、約166kgの二酸化炭素の排出削減につながることから、地球温暖化対策に有効です。

地球環境のため、また、ご自身の健康のためにも、ぜひとも取り組んでみてください！

（※）ガソリン車の平均燃費11.6km/L、年間52週、ガソリン価格164.6円/Lとそれぞれ仮定する。